

東京オリンピック・パラリンピック参加の
ガーナオリンピック委員会委員長ら来訪

猪苗代町は、野口英世博士の故郷です。翁島の生まれです。国道49号線沿いに野口英世博士の功績を称え、記念館が建てられています。昨年リニューアルし、多くの観光客が来てくださっています。

野口英世博士は、皆さんご存知のとおり、1876年11月9日生まれで、1928年5月21日、アフリカのガーナ共和国で亡くなりました。1歳半のときに左手に大やけどを負いましたが、恩師や友人、家族の励ましと援助によりその困難を克服し、左手の手術により医学の素晴らしさを実感し、自らも医学の道を志しました。アメリカのロックフェラー医学研究所を拠点に世界で活躍し、ノーベル賞の候補にも挙がりました。黄熱病の研究をして、ワクチンの開発に当たり、大きな功績を残しましたが、自らも黄熱病に感染し、51歳という若さで亡くなりました。

現在、猪苗代町とガーナ共和国は、姉妹都市を締結しており、その関係で、2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに参加する選手等の猪苗代町をホストタウンにと、12月2日、ガーナ共和国オリンピック委員長ベン・ヌヌ・メンサ委員長とアビゲイル・クワシ駐日ガーナ公使ら6名が、猪苗代町を訪れ、視察の視察を行いました。その施設見学の一部で、国立磐梯青少年交流の家も訪問してくださいました。オリンピック開催前後に、当交流の家を宿泊基地の候補として約3か月間利用したいとお話でした。一行は、館内を見て回り、宿泊室の様子や、浴室などを視察していききました。

2020年、東京オリンピック開催年は、第13回アグーナリー大会も開催予定されておりますが、うまく調整して、ぜひガーナの選手団の皆さんにここ、国立磐梯青少年交流の家を利用させていただきたいと思っています。

(文責 所長 福 士 寛 樹)

